

## 内事要用後火中

年明初而之書通を不吉なる義申越ニも実ニ心外ニ候得共不得止時機有之乍不本意申越候は世の中開候ニ就てハ兒女之教育方從前之盛岡風ニ而ハ不濟ニ付云々之義心配時折ニ書通ニ申来候ニ付お磯始おくのニも我及丈読書算盤を専ら夜学ニ為勉勵度申付教示致候得共一ツハ教示之行届さる処も可有之候得は敢て人の生質ニ而已關係する事ニ無之義ハ素を無論之事ながら第一込果たるハ於磯ニ候先年帰県ハ僅ニ五日間之事なれハ悉くハ其動作も存間敷候得は彼是噂ケ間敷申も氣之毒ながら粗見聞にも有之候半氣侑氣儘或ハ脊をこくの又するけると云ふニあらず勿論放蕩放増坏と申義房一点無之実ニ最上之好人物也然共其実俗ニ云心よしの甚敷にて極氣の緩き生質と見得候一兩年前迄ハ未た年も行かず候得は内氣にて物事遠慮深き方と計心得時々心懸等之事説諭を加へ候へとも何分思ふ程ニハ不成なれとも一ツも年増候ハ己レと心付奮発する様ニ為至と存無油断夜学も為致お多代ハ女丈之事我等ハ読書等之事世話も致候得共内心ニハ人並ならざるを恥候ものや更ニ奮発するの氣不見得世間之女兒を見聞するに年の二十にも成れハ勝手廻りハ勿論裁縫等ニ至まで善悪ハ差置大概ハ独歩する様子なるに於磯ハ昨年ハ廿年なれと

も今以手離れ其業する事不能ハ猶小兒之如くや爰を以て見れハ初遠慮深きと見受たるハ大ニ誤りにて氣心ニ締なき質と見得候先其行届不申事件数々可有之候へ共先其第一ヲ揚て云ふへし夜分勝手仕廻をして家内打寄夜仕事するに手に物を持たず座睡深更ならハ誰しもあるへし少し氣之ある者ならハ舅姑之眼前なとにてハ眠りても眠らぬ風をするか我身を責ても其色を隠しさうなものタニ今以其氣色不見得又兒共等打集算盤稽古すると斯く除するか斯乗する哉と工夫をする中ニ交り共ニ其業をする積にて算盤を扣玉ニ指を当なからも眠り側を笑ハ居に笑て恥氣なきか如し又夜芝居エ行ても其通り甚敷ハ余処へ客ニ行関口横田本宿な主客打寄との内同士之事咄する側ニ居ながら同断座眠するよし如何なる御堪忍深き御祖母様も何程内同然之家にても客ニ行てまで眠たとハ殆御氣之毒ニ思召候是ハ昨今承る事右云ふ如き質なれハ読書等ハ勿論同年輩之女兒ニ比するに読事行届なし披明不申事実ニ万々なる事右一事を以押而知へし乍去不般之生ハ彼計ニ無之我等を始として世にあるものなるか人ニ後々頼母敷思はれ候に残念なる哉其色不見発する之模様あれハ後々頼母敷思はれ候に残念なる哉其色不見得ハ実ニ言語ニ難述遺憾歎息ハ他事なし帰朝までハ未た間もあれハ其内ニハ往々氣之付様ニ相成哉難計候得共当今其体裁を以見る時ハ東京へ呼取りても姑之如き目上ノ人ありて取締人あらハ格別さもなく彼一人ニ家事を担任し留主を守らす等実ニ安心難成し勿論幸に高官なとに在てハ妻なりとて人ニ応対致せてハ或ハ恥入事と被存候如斯なれハ貴様之心ニ応せざるハ必定扱々大ニ見誤今更我等夫婦申訳無之と昨年ハ後悔千万致居候得共

其動作悉くハ存間敷と留主中彼是噂申越心配為致義如何敷所詮  
 帰朝之上申訊いたし貴様了簡ニ任するも外致方無しと一存ニ被  
 究今日迄も黙止居候へ共猶再考するに右様不体裁なる者何故不  
 知哉と帰朝之上不審ニ預候てハ猶以申開無之或ハ千万其事ハ発  
 言せず我等へ勤まれて其儘被差置候てハ真に身に雖之思ひ忍ニ  
 不堪又二ツニハ帰朝までハ両三年も有之お磯も廿三四ニ可成其  
 節離する事にてハ彼之再縁之差支ニも成又此方之後妻を撰にも  
 幼児と違容易ニ難見付飽迄黙止して双方之不為こそあれ善なる  
 ハなし幸好機会もあれハ只今之内ニ申遣決を取る方と思切り御  
 祖母御初藤田横田エも内々相伺候処免角御女性丈其披明さるハ  
 我等がハとうが御覽被成我等同様之御心配お多代もおくのお波  
 なども同様なれとも今日迄も我等発言不致故皆遠慮したるよし  
 おくのお波なれともハ中ニも兄弟丈ニハ専ら貴様之為を心配し二ツ  
 ニハ継母なれともお多代之行末をも案事頓而と申が心配いたし  
 居候へ共嫂之事彼是申てハ不濟と深慎ミ事ニ拵ても横田御姉様  
 エハ内□申たる事も有之由ニ候へとも横田ニても御同意なれと  
 も頓而我等エ御遠慮にて一切御断無之由今度始而承り兄弟之中  
 尤さもあるへき習なれとも実ニ其心配察入感涙を催候右は實際  
 之事ニ候得へ共免角直話する様ニハ書取兼候得は如何推察ニ預  
 リ候哉斯申遣候は一事も取処なき者之様ニ可存全左様ニ無之前  
 にも申通人柄ニ於ハ実ニ申分無之是迄終一言之返答ケ間敷事も  
 なし申付事違背する事もなし多弁ニあらず娘共も前申通遠慮致  
 居候得は何れも睦敷親ミ是等ハ教ても容易ニ出来ぬ処也唯残念  
 なるハ茂易も申通気心之締なきハ迎も我等如きの教之行届処無

之此實際ヲ以見る時ハ迎も行末永く之宝とハ無覚東必竟我等夫  
 婦之人撰大誤今ニ至申訊無之千悔万憂苦心罷在候乍去結婚之上  
 なれハ貴様之心ニ応し候ハ其儘差置候義ハ猶我等更ニ子細無  
 之候前ニも申通留主中彼是申越心配為致義実容易之思切りニ  
 ハ無之黙止居候て却て後々悔心するもハ寧唯今内ニ申越善悪決  
 取候方往々之安心と決心して此度申入候斯申入候処ハ善悪とも  
 取繕たる義ハ実以一毛も無之神ニ誓て申処ニ候間何卒格なく只  
 ふみ行届不申処ハ宜推察有之度候我等が差渡申遣ハちと手着き  
 様可存にてハ我等撰ミて貰受候人分なり且また父子更ニ信意無  
 之が他之手を不借直ニ申遣候間其心得ニ而貴様ニ於ても我等へ  
 不動聊無遠慮熟考善悪相究迅速返書差出候様偏ニ頼入候

右事件ニ付是又申入ニも甚無遠慮至極と可存候得共離縁と決候  
 ハ後妻之義当地広く穿鑿候ハ相応之者有之哉も難計候得共  
 先以容易にあるへくとハ請合不被申候世評之如く帰朝之上高官  
 奉職する上ハ猶更他ニ対して恥かしからぬ人分てなけれハ相互  
 安心無之候間帰朝之上自分相撰候共又東京知人ニ貴様を頼越候  
 共何れにも存入ニ任せ可申候然し斯申遣候ハ我等之心底却而  
 懸念も可有之実ハ前事件ニ付跡々之事も序ニ皆之存慮承りツ、  
 処宅命妹お福なとてハ差当り安心之者無之と申候間もし我等ニ  
 任候ハ右ニ而は如何可有之哉同人ハ小兒之時ハちと地藏顔な  
 る処有之見悪き方なるか大ニ打変美人ととハ難申乍去魂婦と申  
 ニハ決而無之先以十人並也且志も賢出来今年廿二是ハ旧習ニ因て  
云ふ也戸籍編入  
法ならハ廿年と  
何ヶ月なるへしなるに年々不似合能家事ニ心を尽し第一読書算も  
 当地丈て云へハ免角出来是なれハ東京へ出して丸て田舎者と軽

蔑致されましくと被存候只廿二にてハちと年ハ過タと申までニ  
候前書ニ機会と申ハ実ハ当四五月頃までニ本宿家族東京へ引越  
之事宅命ヲ申來せ候得ハお福も何れハ片付可申実ニ他ニ遣し  
ハ残念と一同渴望する故右申合斯申せハ彼ハ離縁是ハ貰ふ事ニ  
内々被究申聞候義と推察ニ可預哉全く押付申聞候心底ニハ更以  
て無之万一お福義承知ならハ本宿引越前ニ取究安心致度夫ニハ  
唯今ハ書通不致而ハ少く共百日間も無之ハ返事達間敷老之癖心  
せき立無遠慮なから此儀も取束一処ニ申聞候何事も信意なきハ  
出たる事と推察有之是又必々ニ我等へ勤不申実情ノ処無遠慮速  
ニ返事被認早々相達候様偏ニ待入居候就中お波ハお福を  
他ニ遣しハ残念也とて氣をもミ居候以上

お福写真不出来なれ共一枚差越候実ハ眉を拵過候故東郷風(まへ)に成  
候生ハ是ハ見能貌ニ候

(包紙)

「極秘用直啓

(武夫注記)

(武夫注記)

「答済」